

令和8年度

事業概要

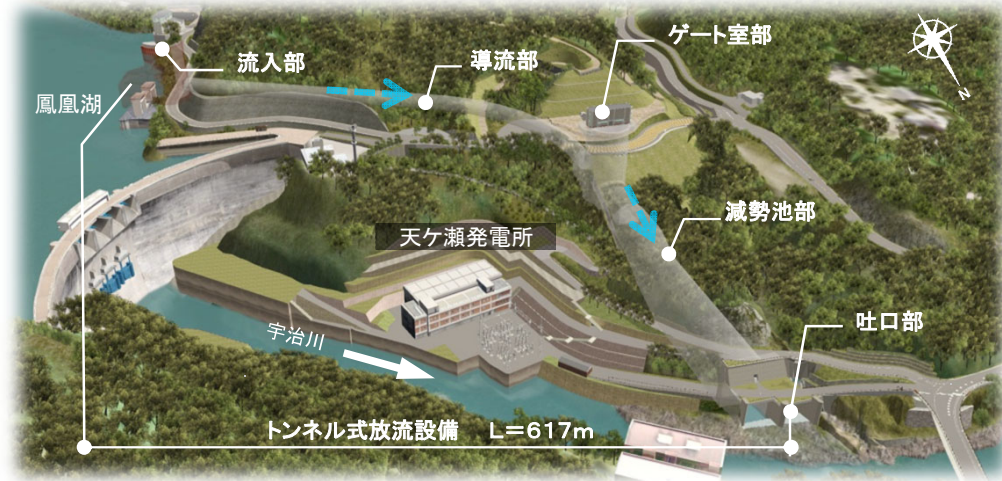


国土交通省近畿地方整備局
淀川ダム統合管理事務所

天ヶ瀬ダム再開発事業

ダムの放流能力増強のため、左岸側にトンネル放水路を整備しました。
令和5年4月1日（土）より管理開始

■ トンネル式放流設備の建設（放流能力の増強）



■ 天ヶ瀬ダム下流に対する効果

- 下流河道の整備と併せて、天ヶ瀬ダムの放流能力を増強。
- これにより、より大きな洪水に対しても洪水調節容量を確保することが可能。
- 天ヶ瀬ダムの後期放流を早期に完了させることができ、次の洪水に素早く備えることが可能。

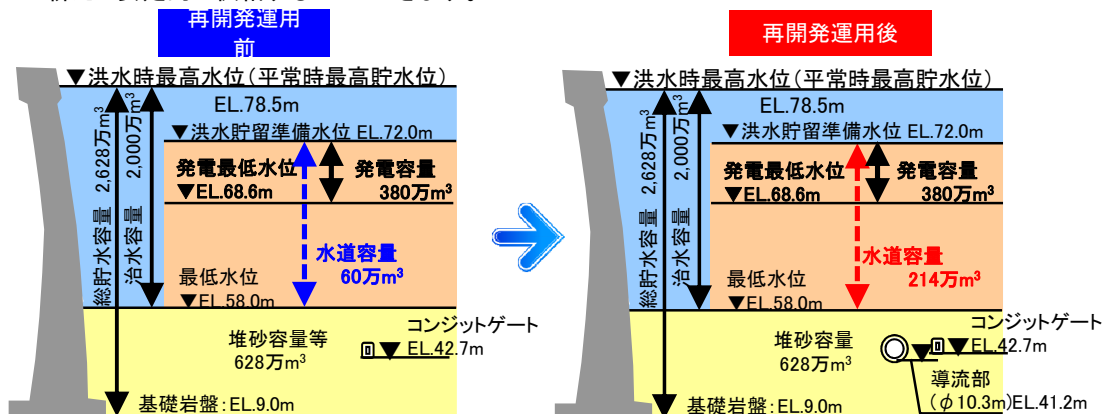
■ 琵琶湖周辺に対する効果

- 天ヶ瀬ダムの放流能力の増強により瀬田川洗堰からの放流量が増加。
- これにより、琵琶湖の後期放流を早期に完了させることで、琵琶湖周辺の浸水被害を軽減。



■ 事業の目的：利水（京都府の水道用水の確保）

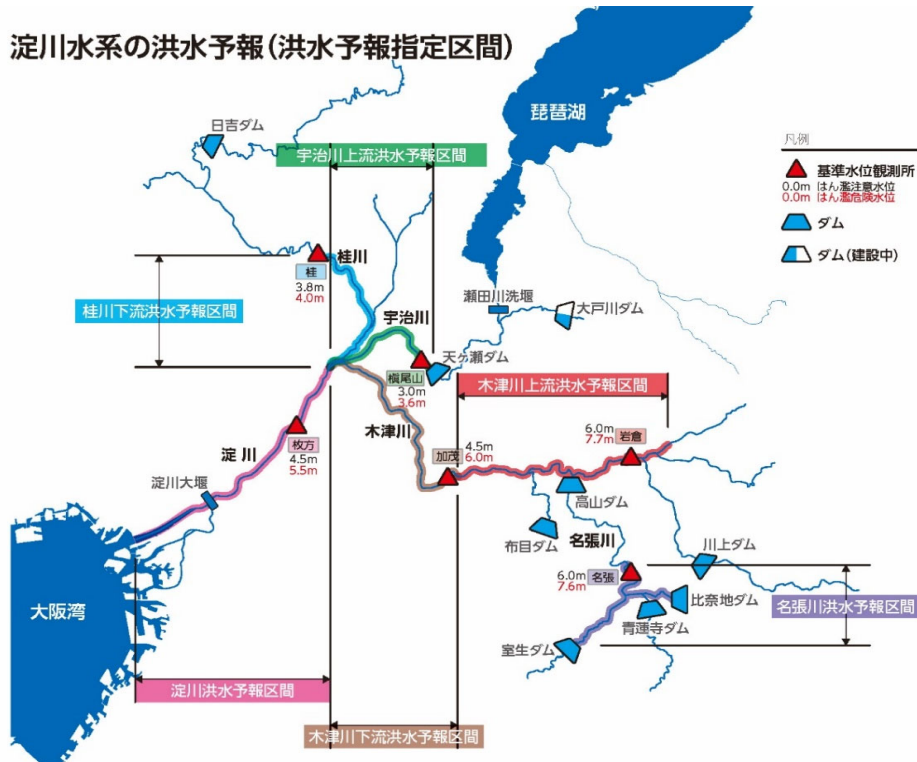
口天ヶ瀬ダム再開発事業による貯水池運用の効率化により、洪水対策や発電に影響を与えることなく、より多くの水道用水を取水できるようになり、1日あたり51,840m³の水（約17万人分）を新たに安定的に供給することができます。



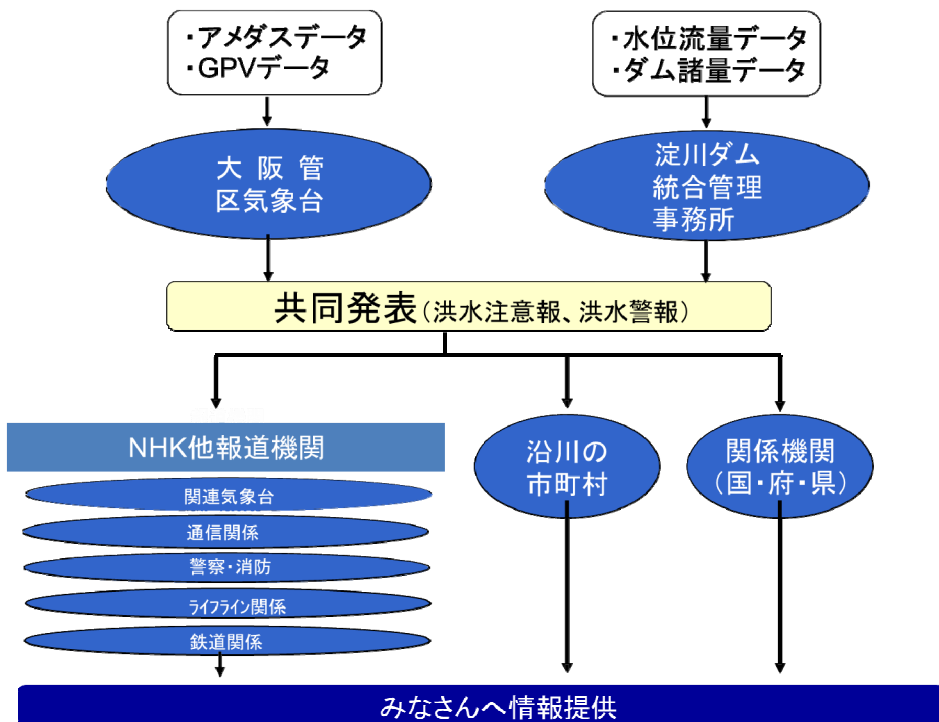
■ 淀川水系の洪水予報

収集した河川情報や気象台から提供される気象予報をもとに洪水の予測を行い、河川水位の見込みや氾濫の危険性について一般の方に情報提供する洪水予報を実施しています。

淀川水系の6区間（淀川、宇治川、桂川下流、木津川下流、木津川上流、名張川）の予報について、大阪管区気象台と連携し、予測される水位レベルなどに応じて発表しています。発表内容は、行政機関や報道機関などを通じ、また、インターネットにより一般市民へ情報提供しています。



情報収集と伝達の流れ



■ 天ヶ瀬ダム管理

淀川水系のダムのうち本川である宇治川で唯一のダムであり、水系内で最も古い多目的ダムである天ヶ瀬ダムの管理を行っています。

主な管理内容は、ダム堤体や機械・電気・通信等各設備の点検、整備や補修、貯水池の巡視、ゲートの操作、放流時の下流警報巡視、堆砂状況調査、水質等の環境調査などです。

令和8年度はこれらの管理業務を確実に実施するとともに堆積土砂の撤去、右岸減勢工の恒久対策、低周波音調査等を実施します。

ダム管理



湖面巡視



流木等処理



漏水量調査



クレストゲート点検放流

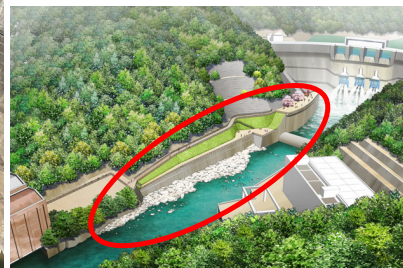
右岸減勢工基盤整備

右岸減勢工導流壁の補修・補強を行い、宇治市かわまちづくり事業の基盤整備を行います。



R7撮影

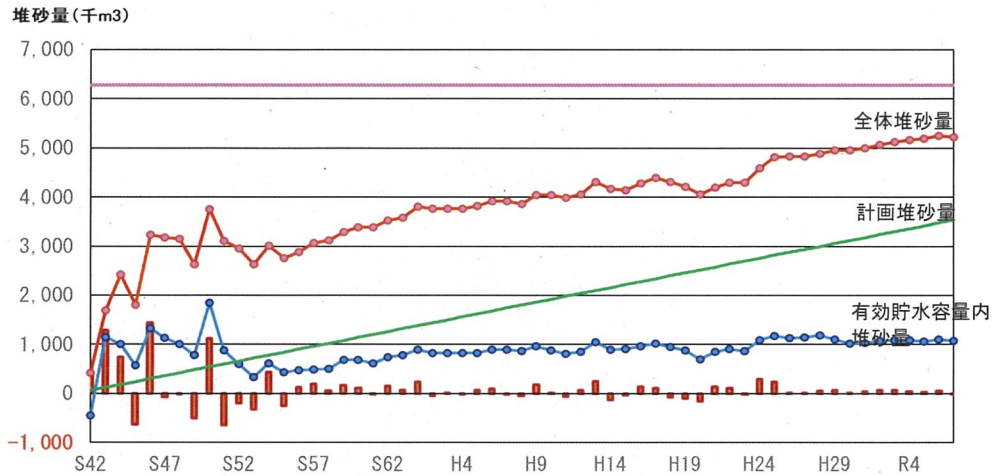
宇治市かわまちづくり事業 イメージパース



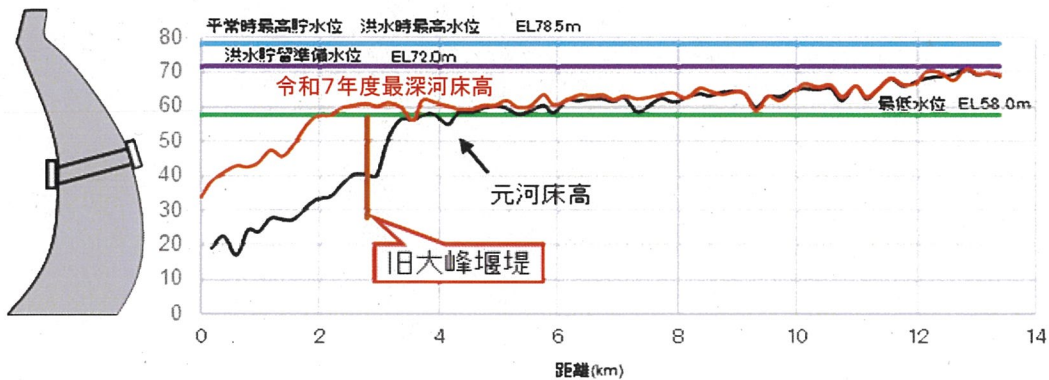
堆砂状況

- 経過年数 61年(令和7年度末現在(昭和39年(西暦1964年)完成))
- 堆砂容量設定の年数 100年
- 有効貯水容量 20,000千m³
- 堆砂容量 6,000千m³
- 堆砂率 約83%(全体堆砂量約5,228千m³/計画堆砂量6,280千m³)
- 洪水調節容量内堆砂量 約5.4%
- 経過率 61%(61年/100年)
- 洪水調節容量 20,000千m³
- (有効貯水容量内堆砂量約1,060千m³/有効貯水容量20,000千m³)

堆砂量の変遷

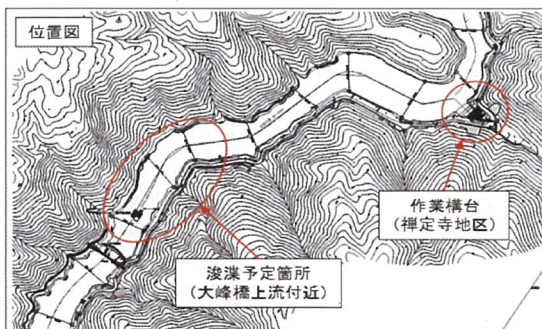


最深河床高変化



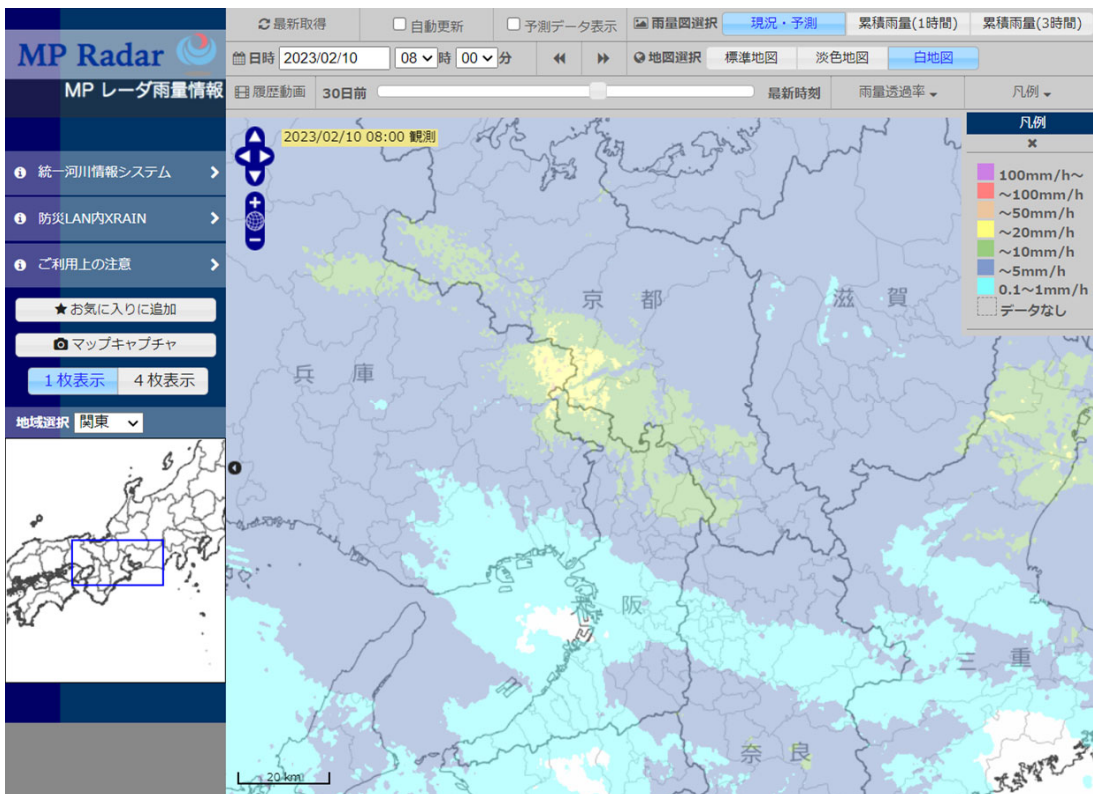
浚渫工事

堆砂を除去するための、浚渫工事を行います。



■ 近畿地方のレーダ雨量計の運用管理

水管理や防災システムの高度化を図るため、降雨状況を面的に捉えるレーダ雨量計システムを運用しており、近畿地方全体を広域的に観測するCバンドMPレーダ雨量計を2基（深山、城ヶ森山）及び京阪神圏を高精度、高頻度で観測するXバンドMPレーダ雨量計を4基（田口、六甲、葛城、鷲峰山）の計6基のレーダ雨量計の運用管理により、近畿全域において高精度・高分解能(250mメッシュ)・高頻度(配信間隔1分)で、地上雨量計の補正が必要なくほぼリアルタイムの配信が可能となっています。



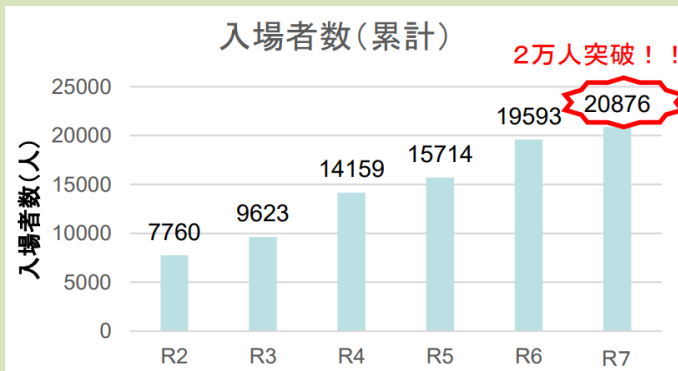
■ その他

インフラツーリズムを推進します。

令和8年度も、宇治市観光協会等と協働しながら天ヶ瀬ダム見学会やツアーを実施し、天ヶ瀬ダムを観光資源として活用した取り組みで地域の観光発展に寄与するとともに、天ヶ瀬ダムの魅力を多くの方に知って頂けるよう引き続き取り組んでいきます。

天ヶ瀬ダム上流域では地元NPOと協働での水生生物調査を行います。

令和7年の天ヶ瀬ダム入場者数が2万人を突破！



夜間見学イベント

令和8年3月には桜の並木の新名所

「天ヶ瀬さくら坂」が誕生！

■ 記念セレモニー

令和8年3月20日



誕生を祝して観光放流を実施

天ヶ瀬さくら坂からの景色

天ヶ瀬ダム観光放流開始！

天ヶ瀬ダムでは、カーボンニュートラルの観点から、発電事業者(関西電力(株))と連携し、治水機能を維持しつつ発電の増強及び地域振興として観光放流を行う、ハイブリッド運用の試行運用を実施しています。



初の夜間ライトアップ観光放流

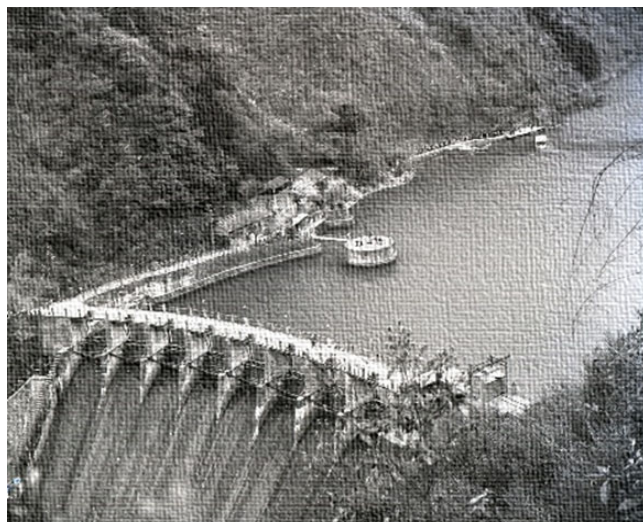


キャットウォーク体験



職員によるダムの説明

天ヶ瀬ダムの上流には、旧志津川発電所の大峰堰堤があり、ダム周辺にはたくさん人が訪れていました。
(写真は昭和29年4月頃)

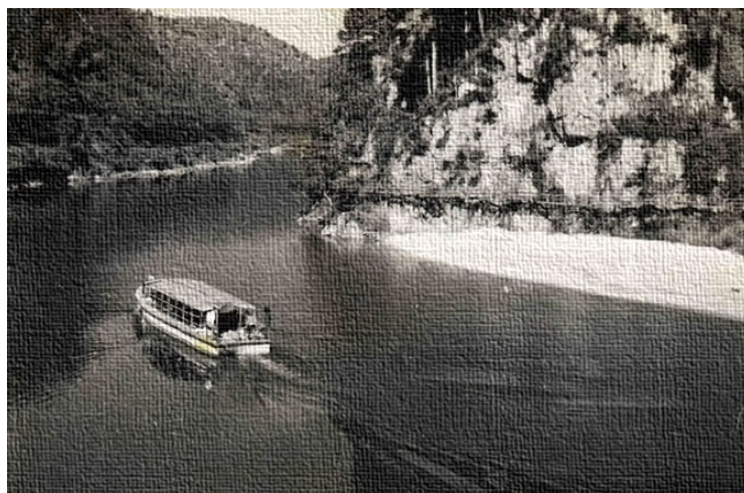


天ヶ瀬ダムができる前の風景



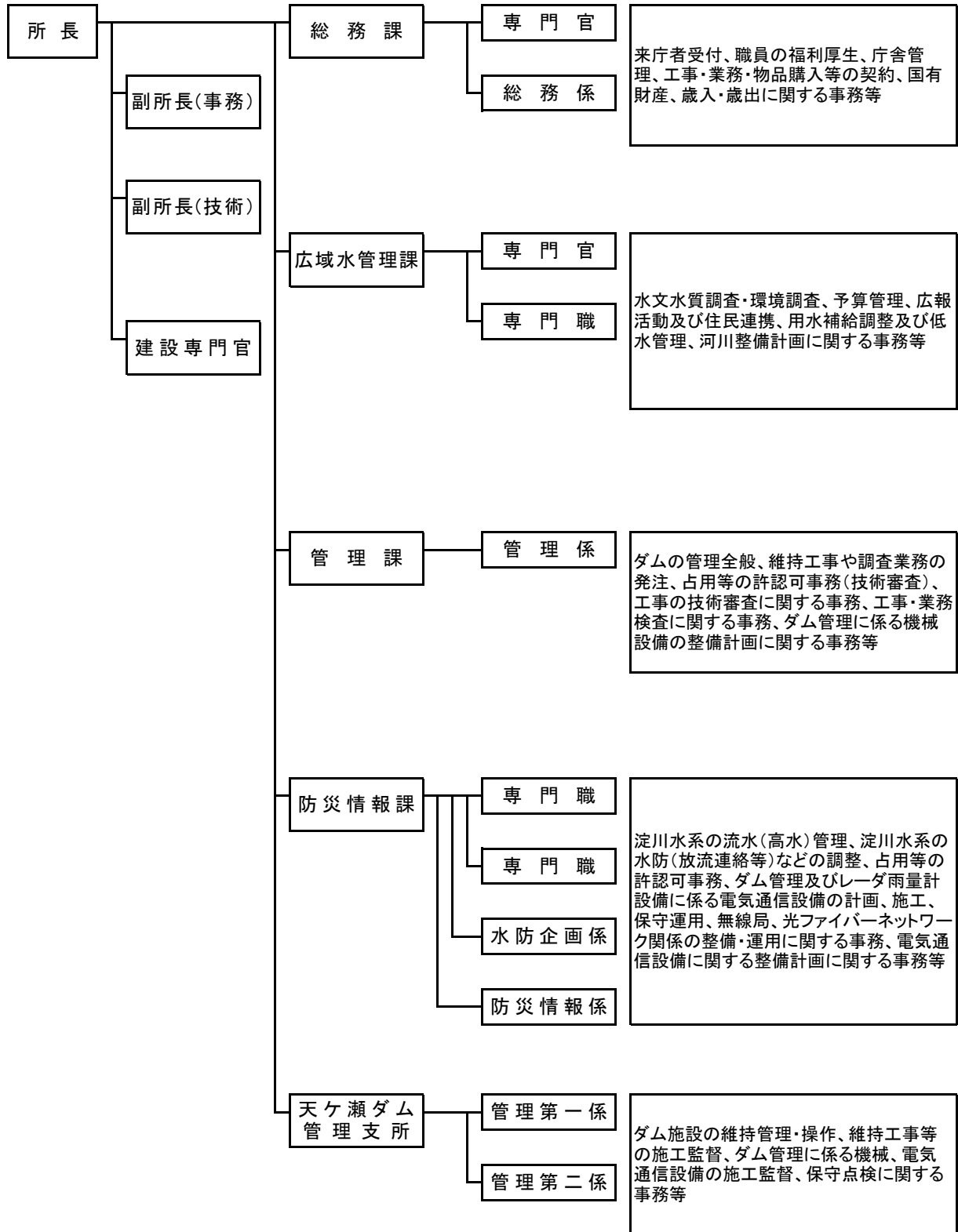
大峰堰堤のすぐ下流の所までおとぎ電車がやってきました。
(写真は昭和30年11月頃)

大峰堰堤の上流の湛水区間では、宇治川ライン遊覧船が運航しており、湖面が観光に利用されていました。(写真は昭和35年頃)



※これらの写真は、宇治市歴史資料館の所蔵のものです。

組 織



予 算

単位:千円 業務取扱費除く

堰堤維持費	R7当初	R7補正予算	R7合計
天ヶ瀬ダム	879,222	441,000	1,320,222
淀川ダム統管(受託含)	99,032	—	99,032

R8当初
819,149
154,305